

持続可能な世界の実現を東北から！

次世代放射光施設が2023年の完成を目指して、東北大学青葉山新キャンパスに建設されています。太陽の10億倍明るい超高輝度の放射光（X線）は、ナノを見る巨大な顕微鏡と言われ、リング型の電子加速器によって発生します。放射光は、世界中で最先端科学の研究に使われて、エコタイヤ、スマートフォン、カーボンファイバー、省エネデバイス、燃料電池、シャンプー、製薬、食品まで、企業の製品開発に貢献してきました。

次世代放射光施設は、兵庫県にあるSPring-8と共に、カーボンニュートラル、脱炭素社会を実現する最先端施設として、大学、国研、企業や地域の中小企業から、その完成が待たれています。世界中に点在する50カ所に上る施設で、新型コロナウイルス感染症のワクチン開発や、EV車に搭載されるリチウムイオン電池の開発にも、使われています。



計測はサイエンスの母と言われます。

計測技術の発展は、科学技術の発展に大きく貢献してきました。まだ誰も使いこなしたことの無い次世代放射光を使いこなすために、光科学イノベーションセンターでは、最先端の計測技術の開発に取り組む若い技術者を求めています。

復興を超えて、持続可能な世界の実現を、東北から次世代放射光と一緒に挑戦しませんか？